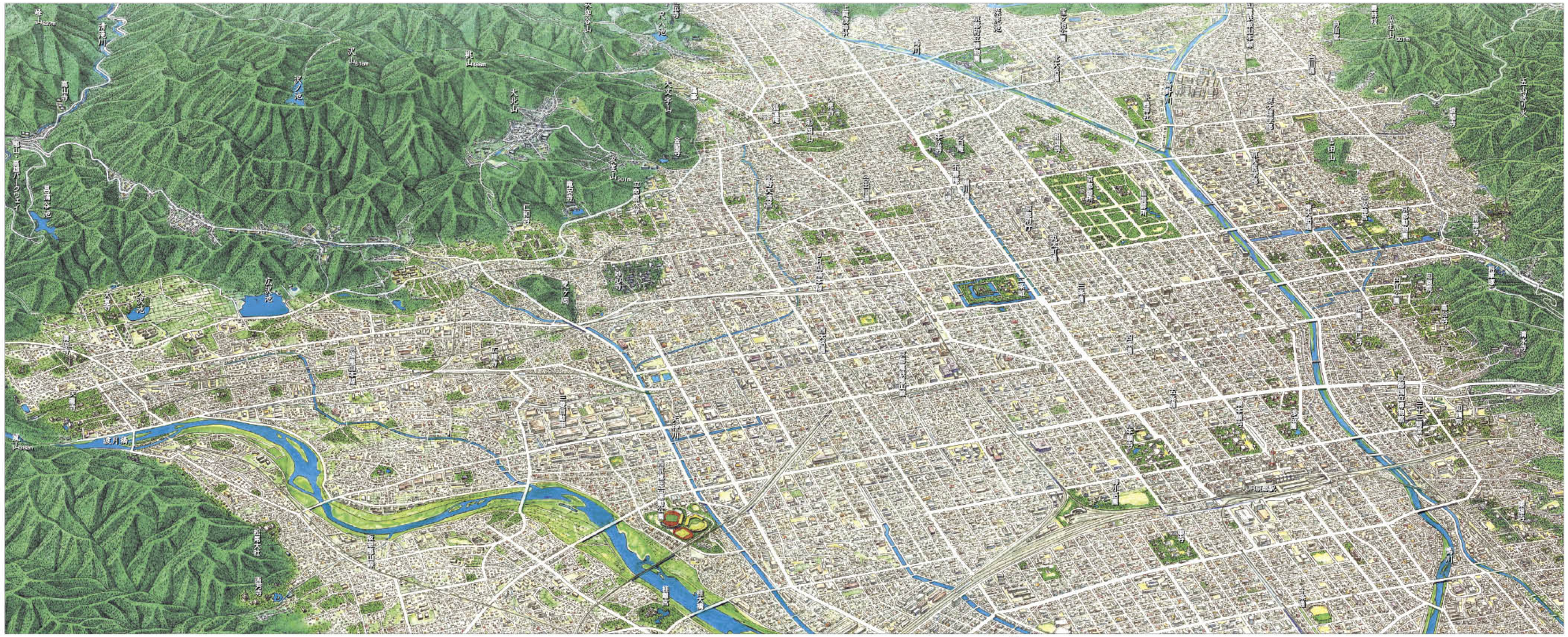


東山

京の都を引き立てる屏風のような東山。遠望すると、人がふとんをかぶって寝る姿にたとえられる。この山が形成されたのは900万年前頃。2億年前に海中で形成された層を地下にあった花崗岩がもちあげ硬質な岩石層が残ったとされている。なだらかな山容だが谷は深く寒暖の差から紅葉の名所として知られ、古くは仙境の地でもあった。

銀閣寺（東山慈照寺）

室町幕府8代将軍足利義政公（1436～1490）により建立された。義政公は、祖父にあたる3代将軍足利義満公の北山殿金閣（鹿苑寺）に習い隠居生活を過ごすため、月待山の麓にあった、応仁の乱で焼失した浄土寺の跡地に文明14年（1482）山荘東山殿を造営した。この東山殿が銀閣寺の発祥である。銀閣寺は俗称であり、正しくは東山慈照寺。義政公の法号慈照院にちなみ、後に命名された。その後、火災に遭い東山殿当時からの遺構は観音殿（銀閣）、東求堂及び庭園のみであるといわれている。

北山文化と東山文化

金閣寺に代表される、はなやかで豪華な印象の北山文化に比べて、銀閣寺は禅宗の影響をさらに強く受けた東山文化の「わび・さび」の境涯を漂わせている。茶を点て、花を生け、芸能を楽しむ別部としての空間で構成され、東求堂、西指庵（禅室）、超然亭、遠歌や茶会のための池畔亭、竹亭、約秋亭など様々な音亭が建てられた。豊かな経済事情を背景とした北山文化に比べ、後の世の茶道や華道となる芽を育んだ東山文化は様式や規模ではない独自の美意識を現代に伝えている。

哲学の道

若王子橋から銀閣寺橋までの約2km が散歩道として整備されている。近代哲学の西田幾多郎が京大で教師をしていた頃、思索に苦しみ、しばしば散歩していた事から哲学の道とよばれるようになった。朝夕にくれば疎水沿の小径は静寂で思索する雰囲気がある。

法然院 延宝8年（1680）智恩院門主・万無上人により、法然上人が修行をした旧跡に建立された寺院。恵心僧都作の阿弥陀如来像を安置。境内には谷崎潤一郎の墓もある。

安楽寺 浄土宗の開祖法然上人のお弟子住蓮上人と安楽上人によって開創された。後鳥羽上皇の女官、松虫姫鈴虫姫の出家の経緯をつづった安楽寺松虫姫鈴虫姫和讃を伝える。

鹿ケ谷カボチャ 津軽から伝わったカボチャをこの地で栽培した所ひょうたん型になり、この地で栽培されてきたという。現在は市街地にかわり栽培されていないが、安楽寺では中風にならないようカボチャ供養が行われる。

霊鑑寺 椿の名所として知られる。境内には300年の樹齢ともいわれる天然記念物の椿がある。鹿谷斜面の起伏をいかした庭園は石組みの表情も豊かだ。尼寺の門跡寺院として皇室との関係も深く200点にも及ぶ御所人形や、双六盤、絵カルタなどが残る。

大豆神社 境内には狛ねずみ狛狐に狛鶴、狛ぎつね等ユニークな眷属がご神体を守る。椿ケ峰から湧き出る水は御神水とよばれる名水。

光雲寺 疎水の道からフト見下ろすとひとさわ大きく見える屋根がここ。後水尾天皇の中宮、東福門院の帰依を受けた南禅寺派の寺。

熊野若王子神社 平安時代初期の創建。聖護院の熊野神社、いま熊野神社とともに三大熊野として信仰をあつめてきた。建物は新しいが歴史は古い。樹齢400余年ともいわれる椿の大木がある。

永観堂 創建は平安初期に弘法大師の弟子真紹僧都による。そっと左を振り返る"みかえり阿弥陀"。極めて珍しい本尊だ。長谷川等伯の波濤図や竹虎図などがある。急斜面の楓林を仰いで映る宝塔の姿は東山ならではの風情だ。境内には滝があり緩やかでここから熊野詣での旅にでたという。

京都五山

南禅寺を別格の第一山とし、天龍寺 / 相国寺 / 建仁寺 / 東福寺 / 万寿寺。五山文化は禅宗を背景として漢詩、漢文、書、絵画、建築、庭園などに表現された鎌倉から室町期の文化。

水路閣 南禅寺境内に残るローマ建築風の水路。橋の上が水路となり禅宗寺院の中で異彩を放つ建築だが、古そしたケでは周囲にとけこみ名所となっている。

琵琶湖疏水 大阪湾と琵琶湖間の舟運を目的に掘削されたが、陸上交通の発達とともに廃れ発電と水道水の確保に貢献した。南禅寺の境内を貫く赤煉瓦のアーチは明治期に近代日本の"礎"を築いた時代の遺構だ。

インクライン 琵琶湖の水運を利用した後、京都への物資輸送の最後の難所は蹴上から南禅寺までのインクラインでむすばれた。高低差36mの傾斜に舟を台車にのせ582mの行程をモーターでひきあげた。日本が産業国家へのスタートをきった明治初期の遺構。先人たちの技術への挑戦の跡だ。

平安神宮 東京遷都で衰退した京都の復興事業として、桓武天皇と孝明天皇を記り平安遷都1100年記念事業として明治28年（1895）に建設された。平安京の大内裏朝堂院を模して作られた。

金戒光明寺 創山の黒谷に対して新黒谷と呼んだ。開基は文禄の役（1592）の後に帰化した朝鮮僧の栄蓮法師である。熊谷直実が法然をしたい出家した所でもいう。

南禅寺 1264年亀山天皇が離宮禅林寺殿を造営。その後五山文学の中心地となる。22mの壮大な楼門は大阪夏の陣の戦死者を弔うために豊臣家の寄進された。南禅院、金地院など寺域に点在する塔頭には禅式枯山水の名庭園が多く残る大寺。

吉田神社 室町時代に下部兼俱が大元宮を創祠し吉田流神道の総家になり神職の任免をした。大元宮は平面八角に六角の後房を付した特徴ある社殿、千木・鰹木にも工夫がある。

京都大学 明治30年（1897）、東京につぐ、第二の帝国大学として創立。旧三高は大阪から第三高等中学が移転してきた。

京阪三条 出町柳と大阪、淀屋橋を結ぶ京阪電車の三条駅。バスターミナルと浪花市バス、京都バスの乗換地点。隣接する橋は鴨川に架かる三条大橋。

祇園

八坂神社の門前街。江戸時代の始めから参詣客相手の水茶屋に始まり宿や料亭、舞や三味線などの芸人が集まる街へと発展していった。夏になると氏子が山車を曳く祇園祭りが行われる。

八坂神社 7世紀に渡来した八坂氏の祖先が、災厄を除去する牛頭天王を祀ったのが始まりと伝えられる。背後には円山公園が広がり都心の憩いの地となっている。

四条河原町 京都一の繁華街。交差点にはバス / 地下鉄が集中しデパートが並ぶ。みやげ店や芝居小屋などが建ち双びり坂神社の参道のにぎわいの名残をとどめる。

新京極 緑日で賑わっていた寺院寺の寺地を、のちに知事になった参事横村正直が没収して芝居小屋や飲食店の並ぶ繁華街としたのが始まり。

錦市場 早朝からは料亭や仕出し、午後からは一般の客と問屋差で賑わっている。今でも若狭の魚、近畿の野菜と新鮮な食品が集まる。錦天満宮のわき水を目当てに魚屋が集まったのが始まりという。市場を歩こう。

四条大宮 地下は阪急大宮駅、地上に京福電鉄嵐山線（嵐電）の駅。北へ向かう大宮通りは細くなっているが平安京の時代の大宮大路に当たる古い道。

二条城 徳川家康が天下を平定し京都の守護と上洛の際の宿舎のために築城された。新御所・新屋敷とよばれた。

二の丸御殿（国宝・桃山～江戸）部屋数33、畳は800畳余りり敷かれる壮大な建物で遺侍、式台、大広間、蘇鉄の間、白書院、黒書院からなる。十五代将軍慶喜が慶応3年（1867）に大政奉還をするまでの265年間、幕府の京都での要となった。

京都御所 明治以前、皇居は京都にあった。式典の行われた紫宸殿、天皇の居室があった清涼殿などが立並ぶ。仙洞御所・大宮御所を含み現在は緑地公園となっている。明治まではここに宮家や公家の屋敷が立並んでいた。

京都府庁 京都守護職上屋敷の跡地にたつ京都府庁は、亜庭通りのけやき並木を導入路に荘厳な明治期のルネサンス様式の建築を残している。

西本願寺 浄土真宗本願寺派の本山。桃山時代の建築物が残る。

東本願寺 親鸞聖人が開創、教如上人が西本願寺より分離。御影堂は木造建築としては世界最大級。

清水寺 京を見下ろす舞台造りの本堂と音羽の滝で親しまれる。奈良時代の開山。付近は桃山地を利用して焼物窯が多く参道では焼物を始め、京工芸品の見せが連らなる。

五条坂 現在は国道1号線（東海道）となり交通量も大分多いが、それまでは竹や沢の細い坂道で付近には登り窯がたつ陶工の街だった。現在でも陶器商が多く夏には陶器市がたち賑わう。

三十三間堂 廊下で行われる通し矢で有名だが、堂内には千手千体の観音像が祀られ圧倒される。千体の観音像から自分に良く似た観音像を探す人もいる。平安後期の創建。

京都駅 七条通りに面する。明治10年の開業。JR、近鉄、市営地下鉄が集中しデパートが並ぶ。京都駅1番線ホーム564mは日本一の長さ。

京都博物館 明治30年（1897）開館。正門と旧陳列館は、赤坂離宮を設計した片山東熙によるフレンチ＝ルネサンス様式の建物。戦後新館を創設。国宝90数点など多数の所蔵がある。

智積院 天正13年（1585）秀吉の根来攻めで焼き打ちにあった玄宥は、高野山に逃れ、やがて洛外北野に学徒を振興し中興の第一世となった。やがて京洛第一の寺といわれるようになり明治33年（1900）智積院を中心に全国3000の寺院が結集し、智積院を総本山として定めた。

昔 京都は海だった。

①京都盆地はかつて大阪湾につづく湾だった時代があった。

②やがて氷河期がくると温度変化により海水面は下降と上昇をくりかえす。海水の痕跡を残した海性粘土層が6層（大阪層群）発見された事から海水の進入は7回あったと考えられている。48万年前頃に寒冷期が訪れ水位がさがり海水が退き盆地となった。

③雨や風化作用で崩られ流された岩石が表面に重なっていった。①～④を通じて地殻変動があり隆起した部分が東山 / 西山となった。陥没した部分はなだらかな盆地となった。豊富な伏流水（地下の水流）があり人類の生活する水は鉄分の少ないまろやかな水で、豆腐をはじめ京料理はばれる、繊細な味の源となってきた。さらにこの水は水量も豊富で京の地下には伏流水として琵琶湖の7割もの水が貯えられているという。

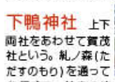
金閣寺 室町幕府の三代将軍、足利義満の別荘として、東山文化が最も隆盛だった時期に造営された。典雅な姿を池に写す金閣は度々の火災にあった昭和30年に再建された。

京の水

京都盆地ではどこを掘ってもよい水がえられる。この

寺院 足利尊氏（1304～58）は暦応2年（1339）、居館のそばの三条坊門に寺持寺を建立。その後衣笠山麓に北等持寺を建て、ともに夢窓疎石が開山。尊氏は延文3年（1358）北等持寺に葬られ、尊氏の法号にちなんだが、等持院とよんだ。

上賀茂神社 平安京以前に創建された京都最古の神社。背後の神山をご神体とする。古来からの伝統を社家と呼ばれる氏子が伝えている。



下鴨神社 上下両社をあわせて賀茂社という。糺ノ森（ただすのもり）を通って参拝する。鎮守の森として神社の手で森が保たれてきた事がわかる。

出町柳 賀茂川と高野川の合流点。叡電と京阪も接している。宝ケ池 / 八瀬、貴船への交通の要。若狭から一夜で運ばれた鯖街道の京への入口である。

西陣

西陣の名は応仁の乱時の西軍、山名宗全が軍をしいた跡地に織物職人が住みつき復興したのがはじまりとされる。

京都市考古資料館 昭和54年（1979）、京都市の埋蔵文化財の保護、調査ならびに研究を目的に開館した。

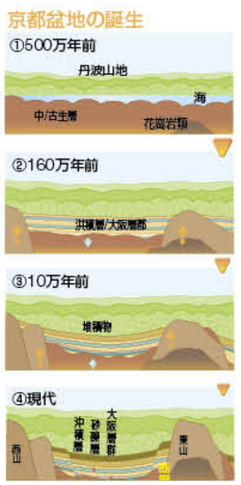
大徳寺 トンチ話で有名な一休さんや沢庵和尚が住持していた。山門の金毛閣は千利休が木像をあつき豊臣秀吉の怒りをかったとされる。

今宮神社 疫病よけの神様として信仰されている。4月にやすらい祭があり京都三大奇祭りに数えられる。

京菜 水菜とも呼ばれ、京の菜菜として知られ栽培は全国に広まる。壬生菜とも近種で水菜・壬生菜を総称して京菜と呼ぶことが多い。葉がタンポポの様に刻まれている所が、壬生菜とちがう。アブラナ科の一・二年草。

京都盆地の誕生

東寺 平安京遷都の時、都の守護のため南面におかれた東西二寺の一つ。弘法大師空海に賜り真言密教の根本道場となった。

東福寺 嘉禎2年（1236）、関白九条道家が奈良東大寺と興福寺の一字をとり、東福寺と名づけて建立した。旧仏教との摩擦をさけるため天台・真言・禅の三宗兼学の道場としたが、しだいに純然たる禅寺となった。

泉涌寺 天長年間（824～33）、空海の創建で法輪寺と称した。月輪山頂上に仙遊石があって仙遊寺といわれた。四条天皇の遺骸を山内に葬って以来、歴代の山陵が営まれた。別名御寺といい天皇家の菩提寺であった。